

グローバル・コンパクト・ジャパン・ネットワーク 東日本大震災復興コレクティブアクションについて

国連グローバル・コンパクトとグローバル・コンパクト・ジャパン・ネットワークについて

- 国連グローバル・コンパクト(GC)は、各企業が責任ある創造的なリーダーシップを発揮することによって、社会の良き一員として行動し、持続可能な成長を実現するための世界的な枠組み作りに参加する自発的な取り組みです。
- 国連グローバル・コンパクトは、2000年にアナン前国連事務総長の提唱により創設され、潘基文現国連事務総長も明確な支持を表明しています。現在では145カ国から9,500以上の企業・団体(うち約6,500が企業)が参加し、企業の社会的責任(CSR)に関する世界最大のイニシアティブとして活発な活動を展開しています。
- 国連グローバル・コンパクトに署名した企業は、人権の保護、不当な労働の排除、環境への対応、そして腐敗防止の基本10原則に賛同する企業トップ自らのコミットメントのもとに、その実現に向けて努力を継続しています。

世界に約80あるグローバル・コンパクト・ローカル・ネットワークは、それぞれの地域におけるGC10原則の発展の責務を担っており、グローバル・コンパクト・ジャパン・ネットワーク(GC-JN)もその一つです。現在はGCの普及・発展のみならず、CSRのプラットフォームとしても活発に機能しています。

- 日本発の考え方や活動を内外に積極的に発信することで、日本企業に刺激と示唆を与えるとともに、アジアや欧米企業との連携を深め、グローバルなネットワークを広げることを目指しています。
- 企業の実務者が他社の実践や学識経験者から学び、世界のグローバル・コンパクト・ローカル・ネットワークと連携する場を設けています。テーマ別の分科会では、CSRの考え方や取り組みについての情報交換や、業界を越えた問題解決の道筋も開かれます。

GC-JN 東日本大震災復興コレクティブアクションについて

3.11の東日本大震災は、被災者の人権侵害、被災地域の環境破壊を引き起こす甚大な被害をもたらしました。このような状況の中で、GC-JNが持つ「企業力を活かしながらの復興支援」の実践を目的とし、東日本大震災復興コレクティブアクションを開始しました。活動はそれぞれの地域の復興状況を踏まえ、常に変容しながら特色ある活動が展開されています。

2011年8月:コレクティブアクション発足に向けての現地視察

2011年9月上旬:活動開始(宮城県気仙沼市大島)

2011年10月下旬:活動開始(宮城県亶理町)

2011年11月下旬:気仙沼市大島における活動第1期(全9回)が終了

2011年12月上旬:亶理町における活動第1期(全4回)が終了

2011年12月:両プロジェクトに関する活動レビューおよび活動再開に向けた検討作業開始

■ 宮城県気仙沼市大島における活動実績(9月～11月)

大島は宮城県北部の気仙沼湾に位置し、陸に囲まれるように浮かんでいます。主な産業は漁業と観光業です。陸中海岸国立公園と海中公園に指定されており、美しい砂浜や松林などを持つ景勝の地としても知られています。

震災により養殖業を含む漁業は壊滅的な被害を受け、震災後半年以上が過ぎた10月ごろからようやく漁業の本格的な復興が開始されました。また、津波により島の展望台に行くリフトが破壊されたり、環境省選定 快水浴場百選にも選ばれた小田の浜が壊滅的な被害を受けたりなど、島のインフラや自然環境も大きな痛手を負い、観光業の復興に向けた大きな足かせとなっています。

<GC-JN コレクティブアクション 気仙沼大島コース>

- 企画: 富士ゼロックス株式会社 / 運営: Civic Force、GC-JN
 - 派遣周期: 毎月第1週～第3週 5泊6日(日曜朝出発・金曜夜帰り) (全9回)
 - 派遣企業数 / 人数: 9社よりのべ 284名が参加
 - 参加企業 (50音順)
朝日新聞社、花王(株)、坂口電熱(株)、JSR(株)、新日鉄エンジニアリング(株)、(株)タクマ、武田薬品工業(株)、富士ゼロックス(株)、横浜ゴム(株)
 - 活動内容
 - 9月: がれき撤去、倒壊家屋の片づけ、写真洗浄
 - 10月: がれき撤去、倒壊家屋の片づけ、写真洗浄(全ての写真の洗浄が終了)
 - 11月: がれき撤去、倒壊家屋の片づけ、漁業復興支援(カキ養殖用筏の組み立て、散乱した漁具の整理 など)
- 毎回上記の活動以外にも、「被災地視察」、「現地住民(白幡災害対策本部長、一般市民)からの講話」、「復興ミーティング」が共通プログラムとして行われ、参加者が島の概観、復興状況を理解する上で大いに役立っています。また、派遣チームによっては独自に現地住民との交流が行われるなど、参加者が能動的に現地と関われるような枠組みとなっています。現地での活動は、災害支援 NGO である Civic Force の現地スタッフと連携をしながら行っています。
- 上記のような活動を通じて参加者が気仙沼市大島に関する包括的な理解を深め、今後の復興に継続的に携わっていくことが期待されています。また、大島に愛着を持ち、復興を底から支えてくれる外部の人が着実に増えていることは大きな成果と考えております。
- 今後について
 - 第1期の活動は2011年11月をもって一時中断し、これまでの活動レビューおよび2012年の第2期に向けた検討・準備を進めております。現地のニーズを精査し、冬の東北という天候条件も加味しつつ、さらに参加企業から意見を頂きながらなるべく早い再開を目指しています。再開後も数カ月おきに活動レビューを行ない、現地と参加者にとってよりよい形での派遣を継続してゆきたいと考えます。

■ 宮城県亶理町における活動実績(10月～12月)

亶理町は宮城県の南部、阿武隈川の河口に位置する農業田園都市で、東北地方としては比較的温暖な気候を利用しての野菜・果樹・花卉栽培が盛んであり、特にイチゴが名産です。しかし今回の震災で9割のいちご畑が被災し、大きなダメージを受けました。

亶理町は被災地域の中でも最も多くのがれきが出た地域の一つでしたが、外部からのボランティアを早い段階で受け入れたり、さらに建物の撤去に旗による色分け方式を実施したりするなど、災害ボランティアセンター主導のがれき撤去、分別がいち早く進んだことでも知られています。

現在はボランティアも長期復興のステージに入っており、2011年10月には住民の声を反映した「亶理町震災復興計画案」が提出されました。復興計画案のなかでは、町の復興基本方針として「安全、安心、元気のあるまち 亶理～亶理らしさを守り・生かした 町民が主役の復興まちづくり～」の実現が明記され、明確な方向性を持った復興がスタートした所です。

<GC-JN コレクティブアクション 亶理町コース>

- 企画・運営：(株)巡の環、(株)クlean、GC-JN
- 派遣周期：毎月2回、2泊3日(水曜午前出発・金曜午後帰り) (全4回)
- 派遣企業数／人数：5社より39名が参加
- 参加企業 (50音順)

朝日新聞社、花王(株)、双日(株)、武田薬品工業(株)、ライオン(株)

- 活動内容

10月：イチゴオーナメント作成、「亶理グリーンベルトプロジェクト」(仮)の種子採取・苗づくり

11月：「亶理グリーンベルトプロジェクト」(仮)の種子採取・苗づくり

今回のコレクティブアクションでは、復興に向けた亶理町の施策の一つである「防潮林と人工丘の整備(プロジェクト仮称：亶理グリーンベルトプロジェクト)のため、海岸線沿いに緑の帯を作る作業を行ないます。多様な生態系を重視しながらその土地に昔からある多様な木々の種子を採取し、そこから苗作りを行い、今後20年、50年先を見据えた減災をめざした森づくりの第一歩を支えていきます。

また、活動の最終日に「復興に向けて企業として何が出来るか」をテーマにワークショップを行ない、参加者個人として、企業としてなすべきことについての認識を深めることができるプログラムになっています。

現地での活動は、地域づくりのコーディネートを専門とする(株)巡の環の現地スタッフと連携をしながら行っております。

- 今後について

第1期の活動は2011年12月をもって一時中断し、これまでの活動レビューおよび2012年の第2期に向けた検討・準備を進めています。現地のニーズを精査し、冬の東北という天候条件も加味しつつ、さらに参加企業から意見を頂きながら、なるべく早い再開を目指しています。再開後も数カ月おきに活動レビューを行ない、現地と参加者にとってよりよい形での派遣を継続してゆきたいと考えます。



GC-JNコレクティブアクション 活動の様子

<気仙沼市大島>

がれき撤去



写真洗浄



漁業復興支援



カキ養殖用筏の組み立て



散乱した漁具の整理

<亶理町>

津波で残った木から種子を採取



いちごのオーナメント作成



苗のポットづくり



ワークショップ

